

東福寺 学生時代に硬式テニス同好会に所属していたこともあって、テニス部の顧問を引き受けることになりました。部員たちとは和気あいあいと活動し、夏休みなどは大会のための練習や合宿に私も参加していました。

市長 心理学がご専門ですが、実は研究の分野は多岐にわたり、生涯学習や男女共同参画などの分野にも大きくご貢献いただきました。

東福寺 最初の2年間は心理学の実験的な研究に取り組んでいました。昭和59年に本学に地域問題総合調査研究室ができると、私も生涯教育プロジェクトのメンバーとして参加し、三重県の生涯教育の現状と課題をテーマに研究を行い、成果をまとめました。それ以降、三重県や県内の市町の生涯教育振興に関わるようになり、2000年に津市で開催された「日本女性会議2000津」には準備会、そして実行委員会の委員として参加しました。その経験を一過性のものにしないために、大会終了後も学生や市民の皆さんの意識調査を行ったり、また県や市の男女共同参画審議会などにも関わってきました。

そのため本業の心理学よりもむしろ男女共同参画をテーマとした講演の方が多くなりました。

市長 生涯学習から男女共同参画へと非常に新しい分野に携わってこられたこれまでの活動が大きく評価され、平成28年6月には男女共同参画の功績として内閣総理大臣表彰を受賞されました。

東福寺 最初に表彰の話をいただいた時は、何かの間違いじゃないかと思いました。県内にはこれまで男女共同参画推進に関わってきた方々が大勢いらっしゃいますし、何よりも日本女性会議2000津の実行委員長の土川禮子先生がまだ受賞されていなかった。ですから辞退することも考えましたが、悩んだ末にありがたく受賞させていただくことにしました。現在も津市をはじめ男女共同参画審議会に関わっているので、今後も引き続き貢献していきたいと考えています。

市長 ありがとうございます。土川先生は、平成30年に内閣総理大臣表彰を受賞されました。こういう新しいテーマへ取り組みながら大学の教壇に立つ中で、平成23年に学長に就任なさいます。就任に当たって心掛けたことや取り組みについてお話しいただけますでしょうか。

東福寺 先日、退職に当たって片付けをしていた



ところ、学長就任時に受けた新聞のインタビュー記事が出てきました。そこには、地域とのつながりを大切に市民に愛される学校にしたい、市民も学校を利用できる環境づくりに取り組みたい、という私の初心が載っていました。上野前学長時代に設立された地域連携センターを活用して、オープンカレッジや出前講座など一定の地域貢献ができたのではないのでしょうか。

市長 市民に開かれた津市立の大学として、地域連携やオープンカレッジについては非常に力を

入れておられ、先生にも大きなご貢献をいただきました。加えて、大学の経営という学長としての

責任も果たしていただきましたが、大学をまとめる立場というのはいかがですか。

東福寺 学校教育法が改正されてから学長のガバナンス(統治)が非常に強調されるようになりました。その点で大きな責任を感じつつ、これまでのように教授会の機能も尊重しながらまとめていく苦労はありました。

市長 学長である傍ら生活科学科教授としても教壇にお立ちになりました。もっと大きな大学だったら、そういう姿はあまり見掛けません。三重短大ならではの姿なのでしょう。

学長でありながら講義も担当 学生の姿を知り元気をもらう

ICHIRO TOFUKUJI

三重短期大学前学長
名誉教授

東福寺 一郎さん

昭和29(1954)年生まれ。昭和56年慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。昭和57年4月三重短期大学法経科専任講師。平成2(1990)年4月同教授(平成18年に生活科学科へ異動)。平成23年4月三重短期大学学長。平成28年6月男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰。平成29年11月三重県教育功労者表彰。

